

## 「こうでなきゃ」を捨てる 大事なことが見えてくる

失敗できないマイホーム  
—— 造りだからこそ、予算内で最高の条件をと検討に検討を重ねて苦勞している人も多いもの。具体的にはどんなことが重視されがちなのでしょうか。

「土地は角地で南向き、リビングは広く、窓は大きく南側に……といったことに囚われて悩んでいる方が実に多いですね。でも、本当にそれが必要なことなのか、よく考えてみてほしいなと思うんです。土地は必ずしも角地で四角で広いという必要はありません。空間の取り方、窓の付け方、外からの目線の切り方……と、設計の仕方一つで快適に過ごせる家は作れます。また、『リビングは広く、何

畳はほし  
い』なんてこと  
もよく言われます

が、何をするため  
その広さがほしいのか、  
突き詰めて考えてみてほ  
しいですね。例えば、20畳の  
リビングをどんな風に使い  
たいの？ と僕はいつも思う  
んです。床面積の大きさに豊  
かさを感じる人もいるのかも  
しれませんが、僕はそうでは  
ないと思う。考えるものさし  
を「帖数」ではなく「住まう  
人」にすることで、どのよう  
に過ごす空間なのか、その部  
屋の持つ意味と必要な広さが  
分かるのではないでしょ  
うか？ その結果、当初考えて  
いた坪数より小さくとも満足  
できる最高の空間をつくるこ  
ともできる。その逆も然り  
ですが、居心地のいい空間であ



しげ やすひさ  
治部 泰久さん

1973年生まれ、下川町出身。『lia Style』（株式会社FPホーム）チーフプロデューサー。「会話から始まる家づくり」をテーマに、新しい家づくりのスタイルを提案している。

一生に一度、失敗できないマイホーム造りにどう向き合うか。新しい家造りのスタイルでいま注目を集める「lia Style」チーフプロデューサー、治部泰久さんにお話を伺ってきた当連載、最終回は『既成概念を捨てる』がテーマ。さて、住まい造りで一番大切にすべきこととは……。

隔月連載

## 造る喜び、 住まう喜び。

<http://www.fp-home.jp/lia/>

既成概念を捨てる、  
ということ。

取材協力 / lia Style (株式会社FPホーム)

れば床面積の大小は関係ない。小さくなれば、税金も安いですしね(笑)。

それから窓。リビングの南側にメインの窓をといる要望が一般的ですが、本当にそれが正しいのでしょうか。例えば日本庭園は、その美しさを室内から鑑賞するために、北や東側にあることが多いですよ。もし敷地の北側に陽の当たる美しい緑があるなら、メインの窓は北向きでもいいと思うんです。もちろん他の方向に明かり取りの窓を設けたり工夫すること、一日中室内は暗くならず、日の移り変りを感じながら過ごせます。

住宅業界の従来の価値観にお客様自身も囚われすぎて、家造りが不自由になってしまっている。これが僕の率直な感想です。まずは既成概念や思い込みを全部捨ててほしい。そうすると住まいの可能性は一気に広がるし、楽しくなってくるはずですよ

なるほど。発想を転換するだけで、あらゆる「こうでなきゃ」から抜け出すことができるのです。では最後に、家造りを検討しているオトコ読者に、後悔しない住まい造り

のためのアドバイスを。

「改めてお伝えしたいのは、前述したような幾多の『条件』や最新鋭の『設備』が住宅の良し悪しを決定する訳ではないということ。住宅とは、衣食住という言葉にもあるように、人々の生活に密着して欠かせないもの。そこに住まう人の心を豊かにすることができ、ものなんです。住宅の中には、そこで日々を過ごす一つの家族がいて、笑顔がある。住まいを造るといことは、大切な家族のことを思い、そこに帰って来るだけで何だかホッと出来て、笑顔になれるような場所を造るといこと。そんなシンプルな気持ちで向き合うことが大切なんだと思います。ひとつ屋根の下で家族が笑顔で過ごす日々をイメージしてみると、自ずとどんな住まいが必要なのが見えてくるのではないのでしょうか」

世間のものさしで測った最高の器を作るのではない。自分と家族にとって本当に居心地のいい、思わず笑顔になれるような空間を造ること。それこそが『住まい造り』の本質なのかもしれません。